

平成28年度山口県読書感想文審査講評

【1年】

（良かった点）

- ・テーマをよくとらえて、自分の生活体験に結び付けてうまく書けていた。
- ・ストーリーを羅列するだけでなく、自分の言葉で自分の思いをよく書いていた。
- ・本文の言葉を挙げて、自分の生活体験に結び付けているものが多かった。
- ・中学1年生にしては言葉の選び方や文章力がすばらしく、日ごろの読書体験の豊富さが感じられた。表現についても日ごろから意欲的に自らの考えを表そうとしている姿勢が伺えた。

（課題点）

- ・選書によって内容の深まりに差が出ていたように思う。TVドラマ化されているものは映像にとらわれやすかった。
- ・伝記ものについてはその人物そのものに対する印象について述べられているものが多かった。
- ・自分の生活体験（部活）の紹介の域を出ていない作品もあった。

【2年】

（良かった点）

- ・全体的によくまとまっていた。

（課題点）

- ・登場人物の心情をもっと深く読み取れるとよかった。
- ・形式名詞を漢字表記したものや誤字がそのままのものがあつた。
- ・思いついたまま書くのではなく、構成を考えてから書くとよい。
- ・本を読んだきっかけを書く必要はない。
- ・読書感想文なのか、生活作文（意見文）なのか、わからない作品が多いので、本の内容や言葉、文章にしっかり根づいた感想であってほしい。

【3年】

（良かった点）

- ・文章力、構成力は3年生らしく、よく考えて書けていた。
- ・本と体験の融合ができていてよく書けていた。
- ・主題をよく捉え、感想文としての構成に長けていた。

（課題点）

- ・テーマがとらえやすく、戦争、平和、テロ、紛争など社会情勢に目が向いていて関心が高いせいか、課題図書を選書が「生きる」に集中した。テーマが絞りやすいぶん、価値観や終末の書き方が型にはまっているものが多かった。
- ・視点の当て方の違いでオリジナリティのある作品かどうか、評価に違いが生じた。
- ・自由図書は選書の段階でのアドバイスや指導が必要。（視野の広がる、心から表現できる本との出会いを）
- ・本の内容が捉えられるように等身大の自分を表現できる書き方ができるとよい。

【全体】

- ・全体的に表記の仕方に課題があつた。例：「すごい」「すばらしい」などの言い方を具体的にする。形式名詞「こと」「ため」はひらがなで。「っ」は一マス使う。
- ・テーマをとらえて構成していく力をつける。「一つ目は～、二つ目は～」という書き方は感心しない）
- ・題名のつけ方に工夫を。（「～を読んで」は極力避ける）
- ・誤字、脱字、原稿用紙の正しい使い方などは支部審査の段階でしっかりとチェック、訂正する必要がある。
- ・指導者の指導がもう少しあればもっと優れた作品になるのに、と思われる作品がいくつもあつた。今後のご指導をお願いしたい。